

2015年3月27日

横浜美術館コレクション展 2015年度第1期

## 身体からかんがえる コレクションにみる身体表現—現代美術を中心に

The Exhibition of the Yokohama Museum of Art: Collection 2015 Part1

Thinking with the Body: Ways of Relating to the Body in Contemporary Art

2015年3月28日(土)—5月31日(日)

横浜美術館



森村泰昌《私の中のフリーダ(赤い髪飾り)》2001年、  
カラー写真、カンヴァス加工、150.0×120.0cm、寄託作品



ジャック=アンドレ・ポワファール《無題》1930年(後年のプリント)、  
ゼラチン・シルバー・プリント、28.3×21.7cm、横浜美術館蔵

横浜美術館コレクション展 2015年度第1期では、「美術における身体」をテーマに現代美術作品を中心にをご紹介します。

時代や文化背景の違いによって人々の身体のとらえかたは異なります。かつての移動手段であった徒歩や動物にかわり、近代以降技術の格段の進歩により交通機関が発達し、人は長距離を高速で移動できるようになりました。また通信網の発達により今では実際に足を運ばずとも居ながらにして遠く離れた場所の情報を得ることもできます。本来私たちが知りえないはずの膨大な量の多様な情報がインターネット上にあふれ、またコンピューター技術が生み出すバーチャルな世界がひろがりを見せる中で、身体に対する私たちの意識や感覚も変化してきました。肉体としての身体の実感が得づらくなりつつあるいま、同時代を生きるアーティストにとって、実在する身体は、それを取り巻く空間とそこから展開する世界を読みとくとき、他者に伝えるための手がかりとなるといえるでしょう。

本展では、6つの章により美術作品における身体表現を考えます。  
森村泰昌による「私の中のフリーダ」シリーズをはじめとして、平野薫が2007年から2008年にかけて横浜美術館で滞在制作した、衣服をほどこき再構成する作品《Untitled— mother and baby—》ほか、日本の現代美術のアーティストによる作品を展示します。またパブロ・ピカソ、サルバドル・ダリら20世紀の巨匠たちによる身体表現をあらためてとらえ直します。さらに、伝統的な日本画の技法や空間表現をとりいれつつ、現代を描く三瀬夏之介、中村ケンゴ、藤井健司らの作品を通して、作品に描かれる空間と鑑賞者の身体との関係について考えます。写真展示室では、アンドレ・ケルテス、マリオ・ジャコメッリら、20世紀の写真家たちがとらえた身体をご覧ください。

### 展示構成

#### 1. 変幻する身体 / Transformed Bodies

サルバドル・ダリ《幻想的風景—暁、英雄的正午、夕べ》、フランシス・ベーコン《座像》、ヴィフレド・ラム《アダムとイヴ》、ロバート・ヤーパー《ヘリコプター》

#### 2. 顔と向き合う—ポートレート / Confronting Faces: Portraits

奈良美智《春少女》、川島秀明《roses》、パブロ・ピカソ《帽子をかぶった婦人》、ほか

#### 3. とらえられた身体 / Captured Bodies

高嶺格《水位と体内音》、ルーカス・サマラス《オートポラロイド》、小谷元彦《SP2 'New Born' (Python X)》、ほか

**4. 入れかわる身体／Replaced Bodies**

もりむらやずまさ 森村泰昌「私の中のフリーダ」シリーズ、ひらのかおる 平野薫《Untitled—mother and baby—》、ちばん 遅鵬《五行山》

**5. そこにある身体／Existence of Bodies**

みせなつのすけ 三瀬夏之介《ぼくの神さま》、おのゆうぞう 小野友三《無題》、さいとうよししげ 斎藤義重《内部》、中村ケンゴ《コンポジション・トウキョウ》、ほか

**6. 身体への眼差し—20世紀写真における身体表現／Gazing at the Body: The Body in Photographs in the 20th Century**

エドワード・マイブリッジ《ジャンプする男》、エドワード・ウエストン《ヌード》、アンドレ・ケルテス《ディストーションのポートレート、パリ》、ジャック＝アンドレ・ボワファール《無題》、ハンス・ベルメール《無題》、マリオ・ジャコモツリ《スカンノ》、ほか

**7. ホワイエ、グランドギャラリー：イサム・ノグチと近代彫刻／Isamu NOGUCHI and Sculptures in the 20th Century**

イサム・ノグチ《真夜中の太陽》、ほか

**展覧会の見どころ**-----

- 当館収蔵後、初出品作 33 点を展示。(森村泰昌「私の中のフリーダ」シリーズ、小谷元彦《SP2 'New Born' (Python X)》ほか)
- 横浜美術館の企画展、および横浜市・北京市アーティスト・イン・レジデンスプログラムなど、横浜で滞在制作を行ったことのある 5 作家を紹介。(川島秀明、藤井健司、平野薫、金氏徹平、遅鵬)

**関連イベント**-----

横浜美術館コレクション展 2015 年度第 1 期 アーティスト・トーク

○三瀬夏之介（美術家） 日時：2015 年 4 月 25 日（土）

○岩崎貴宏（作家） 日時：2015 年 5 月 16 日（土）

時間：いずれも 14:30～15:30

会場：コレクション展展示室

申込み：不要

料金：無料（当日有効の観覧券が必要です）

※定員 40 名（当日 12 時より総合案内にて整理券を配布いたします）

## ○ギャラリートーク

さまざまな視点から作品の見どころを紹介する、エドゥケーター（教育普及担当）によるトーク。

日程：2015 年 4 月 3 日、17 日、5 月 1 日、15 日、29 日（いずれも金曜日）

時間：いずれも 14:00～14:30

会場：コレクション展展示室

申込み：不要

料金：無料（当日有効の観覧券が必要です）

遅鵬《五行山》2007 年（2010 年プリント）、  
発色現像方式印画、364.6×119.5cm  
横浜美術館蔵

**基本情報**-----

**横浜美術館コレクション展 2015 年度第 1 期 2015 年 3 月 28 日（土）—5 月 31 日（日）**

会場 横浜美術館（〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい 3-4-1）

TEL: 045-221-0300 FAX: 045-221-0317 <http://yokohama.art.museum>

開館時間 10:00～18:00（入館は閉館の 30 分前まで）

休館日 木曜日

観覧料 一般 500(400)円 大学・高校生 300(240)円 中学生 100(80)円 ※小学生以下無料

※（ ）内は有料 20 名以上の団体料金（要事前予約）

※2015 年 4 月 4 日（土）は無料

※毎月第 3 月曜日は横浜市在住の 65 歳以上の方無料（「濱ともカード」をご提示ください）

※障がい者手帳をお持ちの方と介護の方（1 名）は無料 ※毎週土曜日は、高校生以下無料（生徒手帳、学生証をご提示ください）

※企画展ご観覧当日に限り、企画展の観覧券でコレクション展もご覧いただけます。

プレスリリースお問合せ 横浜美術館 広報担当（宮野、藤井、窪田）Tel. 045-221-0319 Fax. 045-221-0317 Email: pr-yma@yaf.or.jp